

医療区分表

(平成18年7月1日より実施)
(H20年,H22年,H24年 改正)
(平成26年4月1日より改正)

●医療区分3 (○は期間限りの有。☆は固定。他算定期間に限り無)

No.	病名(病状)	期間
①	24時間持続点滴を実施している状態	7
10	スモン(国No5)	☆
12	医師・看護職員により常時、監視・管理を実施している	1日毎
13	中心静脈栄養を実施している状態	1日毎
14	人工呼吸器を使用している状態	1日毎
15	ドレーン法・胸腔、腹腔洗浄を実施している状態	1日毎
16	気管切開・気管内挿管、発熱を伴う	1日毎
17	酸素療法を実施している状態。月末確認診療録記載	1日毎
18	感染症治療の為隔離室での管理を実施している状態	1日毎

●医療区分2 (○は期間限りの有。☆は固定。他算定期間に限り無)

No.	病名(病状)	期間
②	尿路感染症に対する治療を実施	14
③	傷病等によるリハが必要な状態(30日以内)	30
④	脱水に対する治療を実施している状態、かつ発熱ともない治療を実施	7
⑤	消化官等の体内出血が反復継続している状態	7
⑥	頻回の嘔吐に対する治療を実施している状態、かつ発熱治療	3
⑦	せん妄に対する治療を実施している状態 注1)	7
⑧	経鼻胃管・胃瘻等の経腸栄養で、発熱、嘔吐を伴う状態	7
⑨	頻回の血糖検査を実施している状態(日/3回)	3
19	筋ジストロフィー	☆
20	多発性硬化症(国No2)	☆
21	筋萎縮性側索硬化症(国No8)	☆
22	パーキンソン病関連(国No20)	☆
23	その他の難病(右記表参照)	☆
24	脊髄損傷(四肢)	☆
25	慢性閉塞性肺疾患(Hugh Jones分類V)	☆
26	人口腎臓・持続緩徐式血液濾過、腹膜灌流又は血漿交換法を実施している状態	☆
29	悪性腫瘍(要薬剤投与疼痛コントロール)	1日毎
30	肺炎に対する治療が必要な状態	1日毎
31	褥創に対する治療を実施している状態(2ヶ所以上)	1日毎
32	末梢循環障害による下肢末端開放創に対する治療	1日毎
33	うつ症状に対する治療を実施している状態 注2) 方針を診療録記載	1日毎
34	他者に対する暴行が毎日認められる状態(方針を診療録記載)	1日毎
35	1日8回以上の喀痰吸引を実施している状態	1日毎
36	気管切開又は気管内挿管を行われている状態	1日毎
37	創傷(手術創、感染創含む)皮膚潰瘍下肢若しくは足部の蜂巣炎・膿等の感染症に対する治療	1日毎

(11・27・28省略)

●医療区分1

上記1~37のいずれにも該当しない場合(今後について要検討)

○以下 『医療区分2の23』に該当する病名

No	疾患名	No	疾患名
1	ベーチェット病	31	原発性胆汁性肝硬変
2	多発性硬化症	32	重症急性膵(すい)炎
3	重症筋無力症	33	特発性大腿骨頭壊死症
4	全身性エリテマトーデス	34	混合型結合組織病
5	スモン	35	原発性免疫不全症候群
6	再生不良性貧血	36	特発性間質性肺炎
7	サルコイドーシス	37	網膜色素変性病
8	筋萎縮性側索硬化症	38	プリオン病
9	強皮症/皮膚筋炎及び多発性筋炎	39	肺動脈性肺高血圧症
10	特発性血小板減少性紫斑病	40	神経線維腫症
11	結節性動脈周囲炎	41	亜急性硬化性全脳炎
12	潰瘍性大腸炎	42	バッド・キアリ(Budd・Chiari)症候群
13	大動脈炎症候群	43	慢性血栓性肺高血圧症
14	ピュルガー病	44	ライソゾーム病
15	天疱(ぼう)瘡(そう)	45	副腎白質ジストロフィー
16	脊髄小脳変性症	46	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)
17	クローン病	47	脊髄性筋萎縮症
18	難治性の肝炎のうち劇症肝炎	48	球脊髄性筋萎縮症
19	悪性関節リウマチ	49	慢性炎症性脱髄性多発神経炎
20	パーキンソン病関連疾患 (1) 進行性核上性麻痺(ひ) (2) 大脳皮質基底核変性症 (3) パーキンソン病	50	肥大型心筋症
21	アミロイドーシス	51	拘束型心筋症
22	後縦靭帯骨化症	52	ミトコンドリア病
23	ハンチントン病	53	リンパ脈管筋腫症(LAM)
24	モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	54	重症多形疹(しん) 出性紅斑(急性期)
25	ウェグナー肉芽腫症	55	黄色靭帯骨化症
26	特発性拡張型(うっ血型)心筋症	56	間脳下垂体機能障害
27	多系統萎縮症 (1) 線条体黒質変性症 (2) オリーブ橋小脳萎縮症 (3) シャイ・ドレーガー症候群	1.	PRL分泌異常症
28	表皮水疱(ほう)症(接合部型及び栄養障害型)	2.	ゴナドトロピン分泌異常症
29	膿(のう)疱(ほう)性乾癬(せん)	3.	ADH分泌異常症
30	広範脊柱管狭窄症	4.	下垂体性TSH分泌異常症
		5.	クッシング病
		6.	先端巨大症
		7.	下垂体機能低下症

※特定疾患医療受給者証の交付を受けている必要はない。